

## 社会的カテゴリーの多次元的分析

筑波大学大学院(博)心理学研究科 久保田 健市

筑波大学心理学系 堀 洋道

Multidimensional analysis of social categories

Kenichi Kubota and Hiromichi Hori (*Institute of Psychology, University of Tsukuba, Tsukuba, 305-8572, Japan*)

This study is conducted to clarify the dimensions that differentiate various social categories, and to establish a typology of social categories. After imagining categorizing all students according to 18 criteria, 203 university students judged whether these 10 rating items related to the nature of social categories were applicable to the imagined categories. Dual-scaling analysis identified 2 different dimensions of significance and organization/preference. Cluster analysis indicates 3 types of social categories: code, values, organization. The differences in the nature of these 3 types are discussed.

**Key words:** social categories, dual-scaling analysis, cluster analysis.

### 問 題

複数の個人がまとまり、集団としてさまざまな活動を行うということは、われわれ人間の活動の主要な特徴である。「集団」という語は、さまざまな人間の集合体に適用可能であり、それゆえに「集団とは何か?」という問いに対して正確に答えることは、たいへん難しい。集団の定義は、研究者の立場によって大きく異なるが、従来のグループ・ダイナミックスを中心とした社会心理学および社会学では、主に(a)相互依存性、(b)相互作用、(c)構造的要因の三つの観点から、集団がとらえられてきた(Deutsch, 1973)。そして、対人相互作用と相互依存性を軸とする小集団(small group)に関する研究が数多く行われてきた。

しかし、より広範な集団現象に目を向けると、相互作用および相互依存性の観点からすべての集団現象を分析するのは難しいと思われる(Brown, 1988; Hogg & Abrams, 1988)。すなわち、小集団と同じように、国家・民族や宗教などに関する大規模な社会的カテゴリー(social category)もまた、われわれ

の行動や態度に確実に影響を及ぼしている。そのことは、われわれの態度や行動が、生まれ育った地域や自身の民族性が有する文化および規範から、影響を強く受けていることから明らかである。また、集団間の差別や偏見といった集団間関係の問題は、小集団だけでなく大規模な社会的カテゴリーでも共通に見られる。これらの社会的カテゴリーは、大規模であるがゆえ、すべての成員が互いに相互作用しあうのが不可能であるし、集団全体で相互依存関係を形成することはできない。にもかかわらず、社会的カテゴリーは小集団と同じように「集団」として機能し、集団成員の態度や行動を決定するのである。

小集団も社会的カテゴリーも、ともに同じ心理学的機能を有する「集団」として再概念化しようとするとき、集団の特徴として共通に残るのは、自分および他者がある集団に「所属している／いない」という認識だけである。したがって、集団過程を議論するにあたり、議論の焦点を集団所属に関する個人の自己概念・自己定義の問題へと展開することが重要となってくる。

このような観点から, Tajfel(1978; Tajfel & Turner, 1979)は, 集団所属に関わる認知過程に重点を置いた集団間行動の理論を定式化した(社会的アイデンティティ理論)。社会的アイデンティティ理論によると, われわれは自己概念および自己評価の一部を内集団の一員としての自己(社会的アイデンティティ)とその評価に依存している。集団間行動の生起において重要なのは, 社会的カテゴリーの顕在化および社会的アイデンティティの意識化であり, 集団間状況で自己概念をポジティブな形で明確化するため, 集団間の認知的・評価的・行動的差異化を生み出すということになる。

このような社会的アイデンティティ理論の主張は, 最小条件集団パラダイム(minimal group paradigm)と呼ばれる実験手続きを用いた実験研究において確かめられている。Tajfel, Billig, Bundy & Flament(1971)は, 点の数の推定傾向(過大推定-過少推定)や抽象画の嗜好によって, 被験者を単に二つの集団に分割しただけの状況を設定し, 集団間行動を検討した。最小条件集団状況で認められるのは, 自己がある集団に割り当てられた, という個人の意識のみであるにもかかわらず Tajfel et al.(1971)は, このような最小化された状況でさえ, 内集団びいき-外集団差別が見られることを明らかにした。

従来の最小条件集団実験では, 点の数の推定傾向や抽象画の嗜好のような社会的カテゴリーが多く用いられてきた。これは, 社会的アイデンティティの顕在化自体が集団間差別にとって重要であることをより明確化するためであった。しかし, これまでに実施された最小条件集団研究の中には, 民族性(Branthwaite & Jones, 1975; Doise, Deschamps & Meyer, 1978)や学校の寄宿舎集団(Moghaddam & Stringer, 1986), 企業の部署(Brown, 1978; Brown & Williams, 1984; Oaker & Brown, 1986)など, 現実世界に実在する社会的カテゴリーによるものも見られる。さらに, コイン投げのような偶然性に基づく社会的カテゴリーを用いた研究も実施された(Billig & Tajfel, 1973; 吉田・久保田, 1994)。このようなカテゴリー化基準の多様性にもかかわらず, 単なる社会的カテゴリー化が, 内集団びいきを生み出すという実験結果が一様に見られている(Moghaddam & Stringer, 1986)。一方, 現実の世界では, 多種多様な社会的カテゴリーが幾重にも重なりあい, 世界を構成している。したがって, 社会的カテゴリーの種類の違いによって集団性の意識および個人の集団間行動に及ぼす影響は異なることが予想される。しかし, 社会的カテゴリーが持つ質的差異の検討や, カテゴリー化基準の違いと集団間差別の関連性の検討

および議論は, 十分に行われていない。

同様の指摘はBrown(1988)にも見られる。集団成員性は個人の自己概念の形成に直接的に貢献するだけでなく, さまざまな社会的解釈・イデオロギーなどの成立にかかわる。Brown(1988)は, それらもまた現実の集団間態度および行動に影響を及ぼすと論じ, 社会的カテゴリーの性質や内容の分析の必要性を主張した。

しかし, 多様な社会的カテゴリーを調査結果をもとに組織化した研究, および, 理論的に分類・整理した研究は数少ない。Turner, Hogg, Oakes, Reicher & Wetherell(1987)は, Rosch(1978)のカテゴリー・システムに関する議論をもとに, 社会的相互作用において他者および自己を(a)種族間(interspecies), (b)集団間(intergroup), (c)対人間(interpersonal)の3段階のいずれかにカテゴリー化して表象とした。なかでも「集団間のレベル」のカテゴリー化は, あまりに包括的にならず, カテゴリー内の類似性を最大化するものとして人々を分類する「基礎レベル」(Rosch, 1978)のカテゴリーであると論じた。しかし, Turner et al.(1987)における社会的カテゴリーの分類は, カテゴリーの包含関係(あるいは抽象度の程度)にのみ注目したものであり, カテゴリー化基準の内容および性質を考慮していない。

また, Hinkle & Brown(1990)は, 社会的カテゴリーの類型化のために, 二つの直交する次元を提出している。一つは, 「個人主義志向-集団主義志向」(individualistic orientation vs. collectivist orientation)の次元である。この次元は, 集団の文化が個人の競争や個人の達成を強調するのか, それとも, 集団内の協力や集合的な達成や内集団の結束を強調するのか, ということの意味する。いわば, 集団内の価値観や対人態度あるいは行動規範の観点からの分類である。もう一つは, 「対比的-非対比的イデオロギー」(comparative ideology vs. non-comparative ideology)の次元である。これは, 特定の外集団と比較されることが意識されるか否かを意味する。「対比的-非対比的イデオロギー」は, 社会集団に固有の傾向であるだけでなく, 集団のおかれた状況に応じて変化するという。そして, Hinkle & Brown(1990)は, 集団が集団主義志向を持ち, かつ対比的イデオロギーが意識されるような状況でのみ, 内集団への同一視が集団間の差別的なバイアスにつながると論じた。「個人主義志向-集団主義志向」の次元および「対比的-非対比的イデオロギー」の次元は, どちらも集団間の態度や行動に影響を及ぼすものとして重要と思われる。しかし, 「対比的-非対比的イデオロギー」の性質は状況に

応じて変動するため、社会的カテゴリーの基本的分類には適さない。また、「個人主義志向－集団主義志向」の次元に関しても、あまりに一般的なため適さないと思われる。

そこで、本研究では、多様な社会的カテゴリー(集団)を性質および機能の観点から多次元的に分析することを試みる。調査を行うにあたり、われわれがどのような基本的次元から社会的カテゴリーを知覚しているかについて明確な仮説を設定することはできない。しかし、想定される基本的次元として、社会的有意義性(social significance)と移行可能性(permeability of group boundary)の二つを挙げることができる。社会的有意義性とは、芸術やファッションの嗜好性のように、社会的カテゴリーが個人的な価値や属性を反映するに過ぎないのか、それとも、社会問題に対する態度や民族性のように、社会的に意味あるものとして成員の価値観や行動様式などと結びついているかを表す。いわば、社会的有意義性は、社会的カテゴリーが単なる人々の分類以上のものであることを表すため重要である。

一方、社会的アイデンティティ理論では、移行可能性の次元を個人の自己概念と社会的アイデンティティの関係および集団間行動の性質を決定する重要な要因とみなしている(Tajfel & Turner, 1979)。すなわち、集团成员性の変更が可能な社会的カテゴリーの領域では、高い自尊心を達成するように、自身の社会的カテゴリー(社会的アイデンティティ)を選択することができる。そのため、これらの社会的アイデンティティに関連して、集団間差別は見られにくい。これに対し、他のカテゴリーへの移行が困難な社会的カテゴリーでは、社会的カテゴリーの評価と自己評価から切り離すことができないため、集団間差別を示しやすくなると考えられる。以上より、本研究では、社会的有意義性(高/低)×移行可能性(有/無)の4類型を仮説的な枠組みとして、多様な社会的カテゴリーを選択し、社会的カテゴリー(社会集団)の性質を分析する。

## 方 法

**調査対象** 筑波大学学生203人(男子94人、女子109人)。

**社会的カテゴリー** まず、社会的カテゴリーを分類する基本的次元として考えられた社会的有意義性と移行可能性の2次元によって、仮説的に4類型を設定した。そして、4類型のいずれか、あるいは、複数の類型にあてはまり、かつ、大学生がイメージしやすいと思われる16個の社会的カテゴリーを選択し

た。選択された社会的カテゴリーは、次のとおりである。

1. 社会的有意義性高－移行可能性高：d. 信仰している宗教・宗派。e. 男女の役割の違いに対する態度。m. 環境問題に対する態度。r. 支持している政党
2. 社会的有意義性高－移行可能性低：a. 加盟しているサークル。g. 出身地。i. 国籍あるいは民族。k. 専攻している学問。
3. 社会的有意義性低－移行可能性高：b. 余暇の楽しみ方。j. ファッションの感覚。l. 音楽や読む本の好み。q. 尊敬する人物の違い。
4. 社会的有意義性低－移行可能性低：f. 利き腕の違い。h. 血液型。n. 体型。p. 肌の色。

さらに、無作為なカテゴリーとして「c. くじ引き」と「o. 学籍番号」を加え、計18個の社会的カテゴリーを用いた(Table 1)。

**評定項目** Deutsch (1973) が集団を定義づける特徴として取り上げた7個の属性をもとに、新たな項目を加え10項目を用いた。具体的には、次のとおりである。

1. グループのメンバーに共通するものの考え方や価値観がある。
2. グループの間に、何らかの優劣の差が存在する。
3. できたグループは、一時的な意味しか持たない。
4. グループは個人の関心や価値観を反映している。
5. グループの中にメンバーが守るべきルールがある。
6. あてはまるグループが一度決まってしまうと、後で個人の意志で変えるのは難しい。
7. できたグループや分類基準を日常生活の中で意識することがよくある。
8. 日ごろから、グループのメンバーと一緒に、何らかの活動をしている。
9. グループとメンバーの性格・気性の間にほとんど関連はない。
0. グループの中に地位の差や役割関係がある。

**手続き** 調査は、授業時間を用いて集合形式で行われた。被験者は、呈示された社会的カテゴリーに従って、筑波大学の学生全体を分類したところを想像し、できあがったグループが評定項目の内容にあてはまるか否かを二値形式で回答した(あてはまる：1、あてはまらない：0)。

Table 1 Hypothesized classification of social categories

Social Significance	Permeability of Group Boundary	
	Easy	Difficult
High (Social)	<i>Social Values, etc.</i>	
	d. Religion	a. Student Club
	e. Attitude to Sex Role	g. Home Town
	m. Attitude to Environmental Problem	i. Nationality or Ethnicity
Low (Personal)	r. Support Political Party	k. Major Subject
	<i>Interest, Liking, etc.</i>	
	b. Way of Enjoying Leisure	f. The Dominant Hand
	j. Fashion Sense	h. Blood Type
	l. Liking to Music or Book	n. Figure
	q. Person whom You Respect	p. Color of the Skin
<i>Arbitrary Social Category</i>		
	c. ID Number,	o. Lottery

## 結 果

全体の反応頻度が、 $\pm 3SD$ の範囲を超えて極端に多かった、あるいは、少なかった10人の回答は、分析から除外された。

全体( $N=193$ )の反応頻度について、カテゴリ基準×項目のクロス集計を行った結果を Table 2 に示す(単位は%)。次に、クロス表に基づく数量化Ⅲ類(双対尺度法)を行った。得られた成分のうち、解釈可能な成分2までの重み係数を Table 3 に示す。固有値は、成分1が.362(説明率67.88%)、成分2が.104(19.55%)であった。また、成分1を横軸、成分2を縦軸とし、重み係数を2次元平面上にプロットしたものを Fig. 1 に示す(英字は社会的カテゴリを、数字は評定項目をそれぞれ表す)。

成分1は、「くじ引き」「学籍番号」「利き腕」のような社会的カテゴリと「一時的」「性格無関連」といった項目が高い正の値を示し、「サークル」「環境問題態度」や「地位・役割」「相互作用」「個人の関心」などが高い負の値を示した。すなわち、成分1は、単なるコード(符号)によって形成された社会的カテゴリであり、それ以上の社会的な意味を特に持たないものと、地位や役割の分化や共通の関心・価値観など、集団としての特徴あるいは意味を付与されている社会的カテゴリが対極に配置される次元である。したがって、成分1は「有意義性」(significance)の次元と解釈された。成分2では、「サークル」「国籍・民族」や「地位・役割」「ルール存在」などで高い正の値を示し、「尊敬する人物」「音楽・本の好み」や「個人の関心」「共通価値観」が高い負の値を示した。以上より、成分2では地位や役割の分化および集団規範の存在する社

会的カテゴリと価値観や個人的な関心事の類似性に基づく社会的カテゴリが対となっていると解釈される。そのため、「組織一個人の選好」(organization/preference)の次元と命名された。

さらに、18個の社会的カテゴリに関し、成分1と成分2の重み係数を用いて、ユークリッド距離による群平均法クラスター分析を行った。その結果得られたデンドログラムを Fig. 2 に示す。これを見ると、18個の社会的カテゴリは三つのクラスターに分類される。第1のクラスターには、「出身地」「体型」「血液型」「学籍番号」「くじ引き」「肌の色」「利き腕」が含まれる。これらは、何らかのコードによる単なる分類であり、一時的でカテゴリ内で成員間の共通性は見られないと知覚されていた。よって、このクラスターは「符号による社会的カテゴリ」を表すものと考えられる。第2のクラスターは、「支持政党」「性役割態度」「ファッションの感覚」「音楽・本の好み」「尊敬する人物」「専攻する学問」「環境問題に対する態度」「余暇の楽しみ方」が含まれる。したがって、個人の態度や価値観・嗜好性などの類似-非類似に基づく社会的カテゴリと考えられ、「個人の態度・価値観に基づく社会的カテゴリ」(以下では、「価値性に基づく社会的カテゴリ」と略記する)と命名された。第3のクラスターは、「サークル」「宗教・宗派」「国籍・民族」が含まれる。これらは、大まかではあるが、カテゴリの中に地位や役割の分化が見られ、ルール(集団規範)も存在していると知覚されており、「組織への所属に基づく社会的カテゴリ」(以下では、「組織による社会的カテゴリ」と略記する)と命名された。

また、調査対象の男女別に、上記の双対尺度法に

Table 2 Frequencies of response by category by items

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	0
	Common Value	Inter-category Dominance	Temporary Category	Individual Interests	Rule	Difficult to change	Familiar Category	Interaction	No Relation to Members' Character	Status and Role
a Student Club	68.39	53.89	7.77	66.84	54.92	37.82	60.62	86.53	24.87	73.06
b Way of Enjoying Leisure	65.80	6.22	22.80	77.20	12.44	7.77	27.46	44.56	17.10	5.18
c ID Number	2.59	5.70	78.24	2.59	5.18	32.64	6.74	3.11	78.76	2.59
d Religion	83.94	26.94	2.59	67.88	66.84	54.40	57.51	46.11	20.73	54.92
e Attitude to Sex Role	61.66	20.73	10.88	67.36	14.51	12.44	25.91	5.70	18.13	12.95
f The Dominant Hand	1.55	9.84	59.07	1.04	2.59	30.05	13.99	1.55	71.50	2.07
g Home Town	36.27	11.92	35.23	5.18	2.07	39.90	28.50	10.88	59.07	4.66
h Blood Type	8.81	3.11	62.18	1.55	0.52	36.27	13.99	1.04	60.62	0.52
i Major Subject	77.72	27.46	9.33	74.09	7.25	22.80	51.81	55.96	32.12	17.10
j Fashion Sense	65.80	23.83	38.34	70.47	4.66	6.74	39.38	18.13	23.32	2.07
k Nationality	58.03	23.83	8.81	25.91	45.08	49.74	43.01	30.05	34.72	29.53
l Liking to Music	76.68	3.63	16.06	74.09	3.63	3.63	24.87	27.98	22.80	2.07
m Environmental Problem	75.65	5.70	9.33	66.84	18.13	11.40	19.17	23.32	23.32	9.33
n Figure	4.66	38.86	54.40	3.11	2.07	24.87	26.94	2.07	61.66	5.70
o Lottery	0.52	8.29	78.24	1.55	6.22	24.35	2.07	1.55	79.79	2.07
p Color of the Skin	6.74	17.10	44.04	3.11	4.15	36.27	17.62	4.66	68.39	4.15
q Person whom You Respect	64.77	5.70	17.62	68.91	3.11	7.25	13.99	6.22	29.02	2.59
r Support Political Party	75.65	15.03	13.99	66.32	26.94	28.50	26.42	31.09	23.83	38.34

N=193. (Unit: %)

Table 3 Category weight coefficients on component 1 and 2, for general

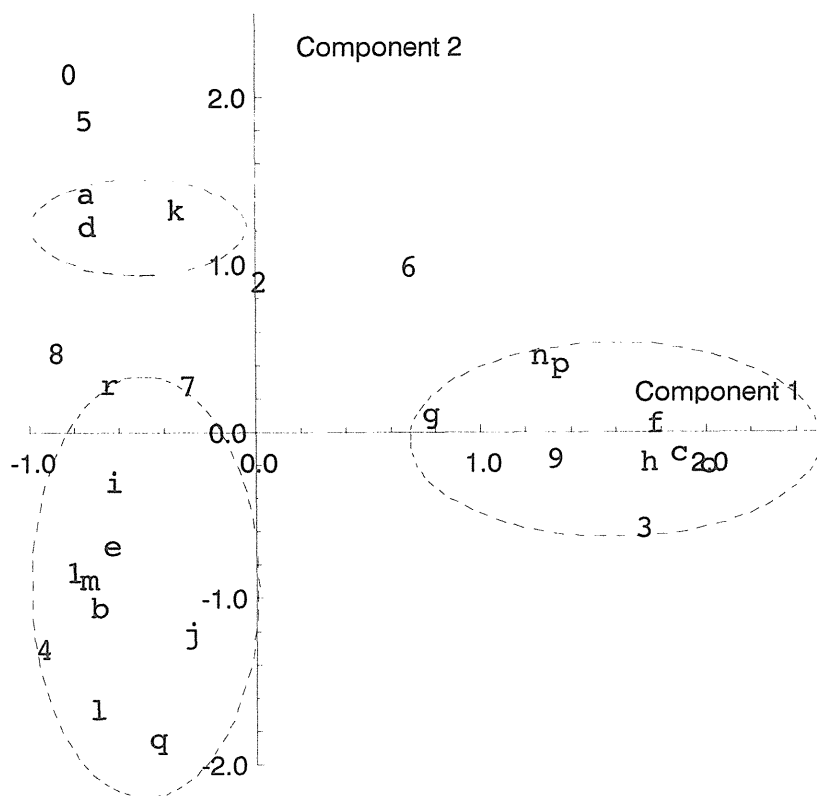
Category	Component 1	Component 2	Item	Component 1	Component 2
a Student Club	-0.75	1.42	1 Common Value	-0.80	-0.85
b Way of Enjoying Leisure	-0.69	-1.06	2 Inter-category Dominance	0.02	0.89
c ID Number	1.88	-0.13	3 Temporary Category	1.72	-0.59
d Religion	-0.74	1.22	4 Individual Interests	-0.94	-1.32
e Attitude to Sex Role	-0.63	-0.69	5 Rule	-0.75	1.86
f The Dominant Hand	1.77	0.05	6 Difficult to Change	0.68	0.98
g Home Town	0.78	0.11	7 Familiar Category	-0.30	0.27
h Blood Type	1.75	-0.19	8 Interaction	-0.88	0.47
i Major Subject	-0.63	-0.31	9 No Relation to Members' Character	1.33	-0.17
j Fashion Sense	-0.28	-1.22	0 Status & Role	-0.82	2.14
k Nationality	-0.35	1.32	Eigen Value	0.36	0.10
l Liking to Music	-0.70	-1.68	PCT of Variance	67.9	19.6
m Environmental Problem	-0.74	-0.90	$\chi^2$	4431.14	1086.04
n Figure	1.27	0.46	df	25	23
o Lottery	2.01	-0.20	p <	0.001	0.001
p Color of the Skin	1.35	0.41			
q Person whom You Respect	-0.43	-1.85			
r Support Political Party	-0.65	0.28			

よる分析およびクラスター分析を行った。男子のデータに関し( $n=91$ )、解釈可能な成分2までの重み係数をTable 4に、重み係数のプロット図をFig. 3に、デンドログラムFig. 4に示す。同様に、女子のデータについても( $n=102$ )、成分2までの重み係数をTable 5に、重み係数のプロット図をFig. 5に、デンドログラムFig. 6に示す。その結果、男子の結果も女子の結果も、ともに「支持政党」が「組織による社会的カテゴリー」に分類されたのを除い

て、男女を込みにして分析した場合と同様の解釈が可能な成分およびクラスターが得られた。

## 考 察

大学生による評定から、多様な社会的カテゴリーが、「有意味性」の次元および「組織一個人の選好」の次元によってとらえられることが明らかにされた。さらに、これらの次元をもとに、社会的カテ

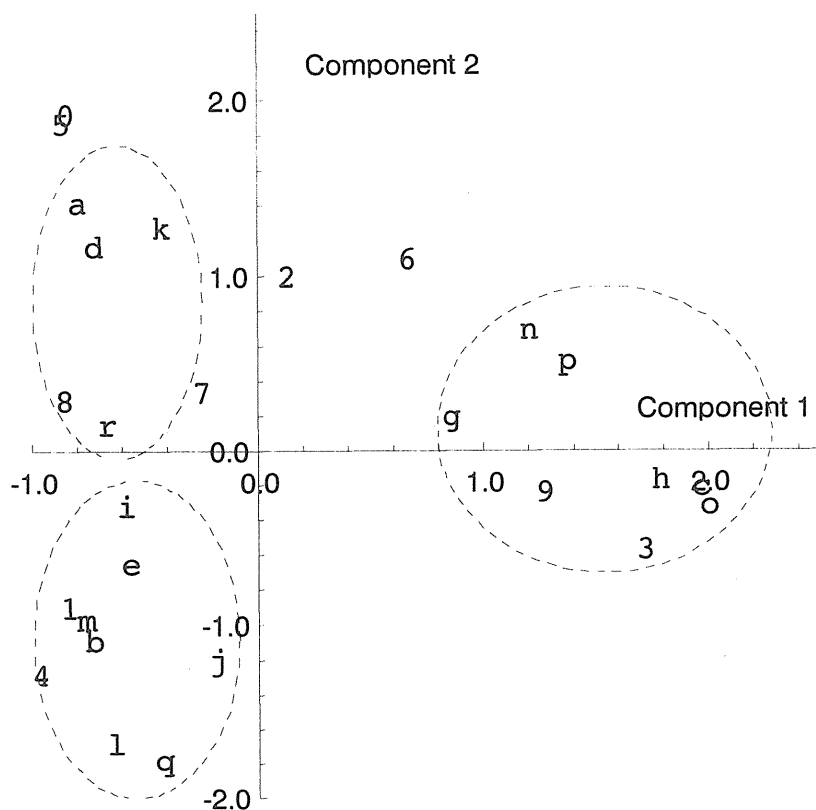


- |                            |                            |                                      |
|----------------------------|----------------------------|--------------------------------------|
| a. Student Club            | k. Nationality             | 1. Common Value                      |
| b. Way of Enjoying Leisure | l. Liking to Music         | 2. Inter-category Dominance          |
| c. ID Number               | m. Environmental Problem   | 3. Temporary Category                |
| d. Religion                | n. Figure                  | 4. Individual Interests              |
| e. Attitude to Sex Role    | o. Lottery                 | 5. Rule                              |
| f. The Dominant Hand       | p. Color of the Skin       | 6. Difficult to Change               |
| g. Home Town               | q. Person whom You Respect | 7. Familiar Category                 |
| h. Blood Type              | r. Support Political Party | 8. Interaction                       |
| i. Major Subject           |                            | 9. No Relation to Members' Character |
| j. Fashion Sense           |                            | 0. Status & Role                     |

Fig. 1 Category weight coefficients on component 1 and 2, for general



Category	Component 1	Component 2	Item	Component 1	Component 2
a Student Club	-0.79	1.40	1 Common Value	-0.84	-0.92
b Way of Enjoying Leisure	-0.73	-1.10	2 Inter-category Dominance	0.13	0.98
c ID Number	1.97	-0.22	3 Temporary Category	1.72	-0.58
d Religion	-0.72	1.15	4 Individual Interests	-0.96	-1.30
e Attitude to Sex Role	-0.56	-0.67	5 Rule	-0.86	1.85
f The Dominant Hand	1.68	0.25	6 Difficult to Change	0.67	1.08
g Home Town	0.86	0.18	7 Familiar Category	-0.25	0.32
h Blood Type	1.79	-0.19	8 Interaction	-0.85	0.27
i Major Subject	-0.58	-0.34	9 No Relation to Members' Character	1.28	-0.25
j Fashion Sense	-0.18	-1.21	0 Status & Role	-0.84	1.91
k Nationality	-0.42	1.26	Eigen Value	0.33	0.11
l Liking to Music and Books	-0.63	-1.70	PCT of Variance	65.2	21.5
m Environmental Problem	-0.76	-0.99	$\chi^2$	1821.75	526.06
n Figure	1.21	0.68	df	25	23
o Lottery	2.01	-0.33	$p <$	0.001	0.001
p Color of the Skin	1.37	0.50			
q Person whom You Respect	-0.41	-1.79			
r Support Political Party	-0.66	0.13			



- |                            |                            |                                      |
|----------------------------|----------------------------|--------------------------------------|
| a. Student Club            | k. Nationality             | 1. Common Value                      |
| b. Way of Enjoying Leisure | l. Liking to Music         | 2. Inter-category Dominance          |
| c. ID Number               | m. Environmental Problem   | 3. Temporary Category                |
| d. Religion                | n. Figure                  | 4. Individual Interests              |
| e. Attitude to Sex Role    | o. Lottery                 | 5. Rule                              |
| f. The Dominant Hand       | p. Color of the Skin       | 6. Difficult to Change               |
| g. Home Town               | q. Person whom You Respect | 7. Familiar Category                 |
| h. Blood Type              | r. Support Political Party | 8. Interaction                       |
| i. Major Subject           |                            | 9. No Relation to Members' Character |
| j. Fashion Sense           |                            | 0. Status & Role                     |

Fig. 3 Category weight coefficients on component 1 and 2, for male



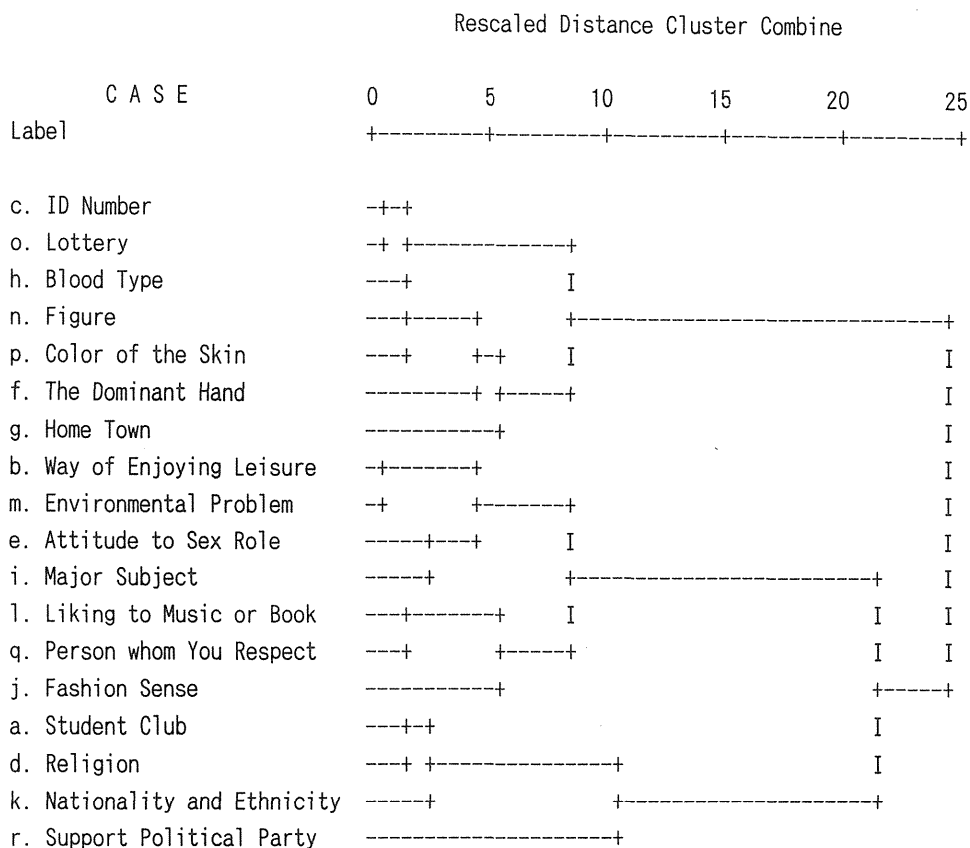
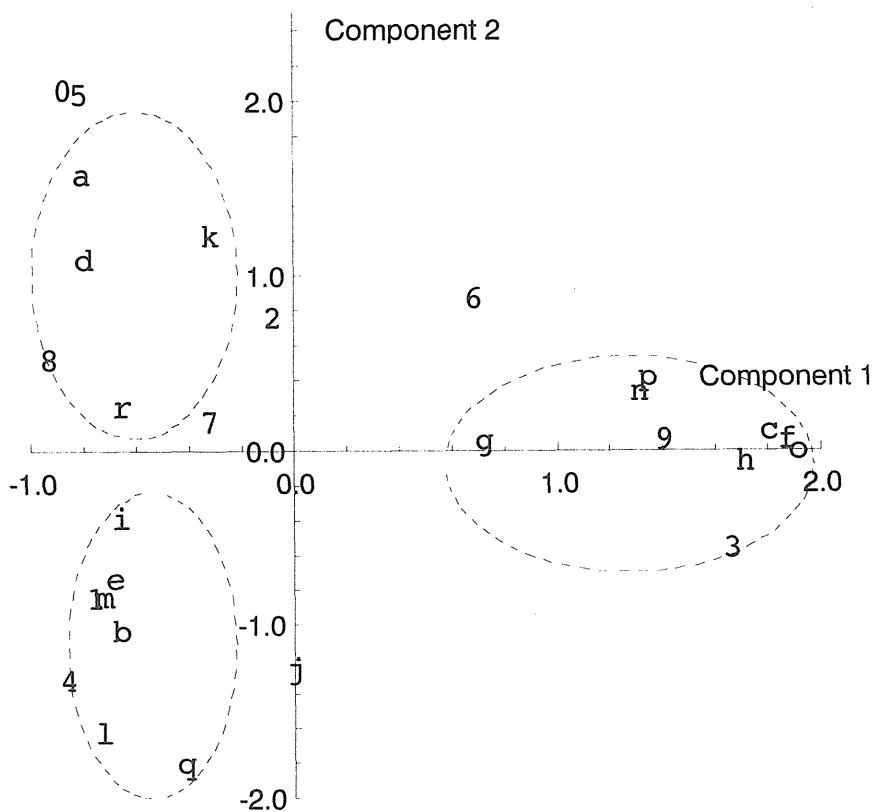


Fig. 4 Dendrogram by UPGMA clustering, for male

Table 5 Category weight coefficients on component 1 and 2, for female ( $n=102$ )

Category	Component 1	Component 2	Item	Component 1	Component 2
a Student Club	-0.80	1.57	1 Common Value	-0.76	-0.85
b Way of Enjoying Leisure	-0.66	-1.04	2 Inter-category Dominance	-0.08	0.75
c ID Number	1.81	-0.11	3 Temporary Category	1.67	-0.56
d Religion	-0.80	1.08	4 Individual Interests	-0.86	-1.33
e Attitude to Sex Role	-0.68	-0.74	5 Rule	-0.81	2.03
f The Dominant Hand	1.88	0.06	6 Difficult to Change	0.68	0.86
g Home Town	0.72	0.05	7 Familiar Category	-0.32	0.15
h Blood Type	1.72	-0.07	8 Interaction	-0.93	0.51
i Major Subject	-0.66	-0.40	9 No Relation to Members' Character	1.41	0.06
j Fashion Sense	0.00	-1.26	0 Status & Role	-0.87	2.06
k Nationality	-0.32	1.22	Eigen Value	0.39	0.12
l Liking to Music and Books	-0.73	-1.64	PCT of Variance	66.4	20.3
m Environmental Problem	-0.72	-0.85	$\chi^2$	2595.33	667.49
n Figure	1.32	0.33	df	25	23
o Lottery	1.92	0.00	$p <$	0.001	0.001
p Color of the Skin	1.35	0.41			
q Person whom You Respect	-0.41	-1.81			
r Support Political Party	-0.65	0.24			



- |                            |                            |                                      |
|----------------------------|----------------------------|--------------------------------------|
| a. Student Club            | k. Nationality             | 1. Common Value                      |
| b. Way of Enjoying Leisure | l. Liking to Music         | 2. Inter-category Dominance          |
| c. ID Number               | m. Environmental Problem   | 3. Temporary Category                |
| d. Religion                | n. Figure                  | 4. Individual Interests              |
| e. Attitude to Sex Role    | o. Lottery                 | 5. Rule                              |
| f. The Dominant Hand       | p. Color of the Skin       | 6. Difficult to Change               |
| g. Home Town               | q. Person whom You Respect | 7. Familiar Category                 |
| h. Blood Type              | r. Support Political Party | 8. Interaction                       |
| i. Major Subject           |                            | 9. No Relation to Members' Character |
| j. Fashion Sense           |                            | 0. Status & Role                     |

Fig. 5 Category weight coefficients on component 1 and 2, for female

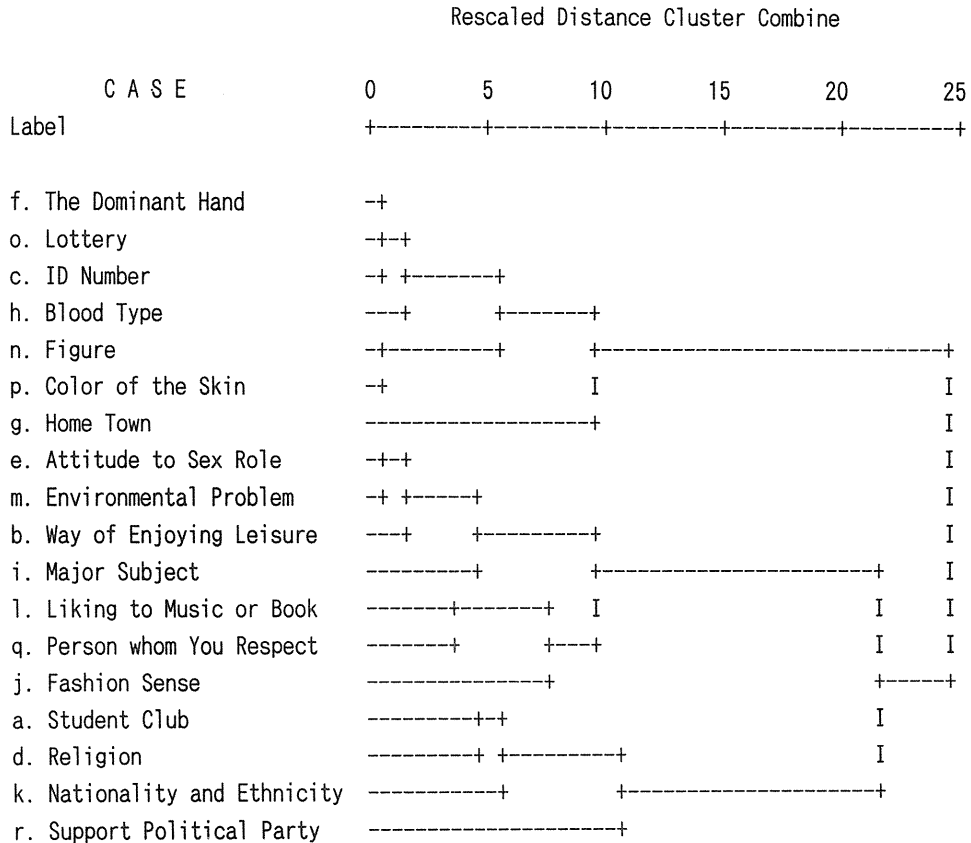


Fig. 6 Dendrogram by UPGMA clustering, for female

ゴリーは(a)符号による社会的カテゴリー、(b)価値性に基づく社会的カテゴリー、(c)組織による社会的カテゴリーの三つに分類された。さらに、この分類は、被験者の性別にかかわらず比較的安定しているものと考えられた。すなわち、男女を別にして分析を行った場合でも、込みにして分析した場合と同様の解釈が可能な成分およびクラスターが得られた。

得られたクラスター間の差異について見ると、「価値性に基づく社会的カテゴリー」は、個人の嗜好や態度・価値観に従い主体的に選択されたカテゴリーであるといえる。これに対し、「符号による社会的カテゴリー」は、むしろ外的に、あるいは、偶然的に与えられた社会的カテゴリーである。そのため、本来構成された社会的カテゴリーに特別な意味があるわけではない。しかし、社会的カテゴリーに基づいた相互作用が行われていく中で、あるいは、カテゴリーに割り当てられたということ自体が、成員にとって何らかの意味を帯びるようになると思われる。「組織による社会的カテゴリー」は主体的に

選択された社会的カテゴリー(サークルなど)と外的あるいは偶然的に与えられた社会的カテゴリー(宗教・宗派、国籍・民族など)の両方を含んでいる。他の二つの社会的カテゴリーと異なるのは、集団の規範や地位・役割の分化など、集団の構造が明確化されている点が挙げられる。さらに、「組織による社会的カテゴリー」は、集団の目標や価値や威信によって特徴づけられ、それらの差異によって他のカテゴリーと複雑な関係性を有している。これに対し、「符号による社会的カテゴリー」と「価値性に基づく社会的カテゴリー」は、ある属性を持つ一持たないという共通性に依存した社会的カテゴリーである。この点も、「組織による社会的カテゴリー」と異なる。

本研究の結果の解釈に関しては、いくつかの重要な制限があることに留意しなくてはならない。本研究は、日本の一大学に在学する学生のみを対象としているため、調査対象の特性が結果に反映されている可能性が高い。したがって、結果の一般化には、

多様な対象に基づくさらなる調査が必要である。また、本研究では、主に形成された社会的カテゴリーが持つ性質に焦点を当てて分析した。今後の研究では、社会的カテゴリー間の関係性(地位・勢力など)の問題も扱っていかねばならないと思われる。

### 引用文献

- Billig, M.G. & Tajfel, H. 1973 Social categorization and similarity in intergroup behavior. *European Journal of Social Psychology*, **3**, 27-52.
- Branthwaite, A. & Jones, J.E. 1975 Fairness vs. discrimination: English vs. Welsh. *European Journal of Social Psychology*, **5**, 323-338.
- Brown, R.J. 1978 Divided we fall: An analysis of relations between sections of a factory workforce. In H. Tajfel (Ed.) *Differentiation between social groups: Studies in the social psychology of intergroup relations*. London: Academic Press. Pp.395-429.
- Brown, R.J. 1988 *Group Process: Dynamics within and between groups*, Oxford: Blackwell.
- Brown, R.J. & Williams, J.A. 1984 Group identification: The same thing to all people? *Human Relations*, **37**, 547-564.
- Deutsch, M. 1973 *The resolution of conflict: Constructive and destructive processes*. London: Yale University Press.
- Doise, W., Deschamps, J.-C., & Meyer, G. 1978 The accentuation of intracategory similarities. In H. Tajfel (Ed.) *Differentiation between social groups: Studies in the social psychology of intergroup relations*. London: Academic Press. Pp.159-168.
- Hinkle, S. & Brown, R.J. 1990 Intergroup comparison and social identity: Some links and lacunae. In D. Abrams & M.A. Hogg (Eds.) *Social identity theory. Constructive and critical advances*. Hemel Hempstead: Harvester Wheatsheaf, Pp.48-70.
- Hogg, M.A. & Abrams, D. 1988 *Social identifications: A social psychology of intergroup relations and group processes*. London: Routledge.
- Moghaddam, F.M. & Stringer, P. 1986 Trivial and important criteria for social categorization in the minimal group paradigm. *The Journal of Social Psychology*, **12**, 345-354.
- Ng, S.H. 1981 Equity theory and the allocation of rewards between groups. *European Journal of Social Psychology*, **11**, 439-443.
- Oaker, G. & Brown, R.J. 1986 Intergroup relations in hospital setting: A further test of Social Identity Theory. *Human Relations*, **39**, 767-778.
- Rosch, E. 1978 Principles of categorization. In E. Rosch & B.B. Lloyd (Eds.) *Cognition and categorization*. Hillsdale, NJ: Erlbaum. Pp.27-48.
- Tajfel, H. 1978 *Differentiation between social groups: Studies in the social psychology of intergroup relations*. London: Academic Press.
- Tajfel, H., Billig, M.G., Bundy, R.P., & Flament, Cl. 1971 Social categorization and intergroup behaviour. *European Journal of Social Psychology*, **1**, 149-178.
- Tajfel, H., & Turner, J.C. 1979 An integrative theory of intergroup conflict. In W.G. Austin & S. Worchel (Eds.) *The Social psychology of intergroup relations*. Monterey, Ca: Brooks/Cole. Pp.33-47.
- Turner, J.C., Hogg, M.A., Oakes, P.J., Reicher, S.D., & Wetherell, M.S. 1987 *Rediscovering the social groups: A self-categorization theory*. Oxford: Blackwell.
- 吉田富二雄・久保田健市 1994 社会的カテゴリー化による少数派および多数派集団の集団間差別行動 心理学研究, **65**, 346-354.

—1999. 9. 30 受稿—